

ツマグロキチョウはキタキチョウと良く似た小型のキチョウで、夏型と秋型の二つの季節型がある。全国分布はせまく太平洋側では福島県、日本海側では福井県が北限、南は屋久島、種子島までが定着域。筆者は沖縄の名護市伊豆味で秋型 1 個体を捕獲記録しているが、沖縄には食草はあるけれども迷チョウだとされている。高砂市松波町近辺ではみたことがなく、2008 年 10 月に初めて西畑にあった花畑でこのチョウに出会っている。まず、静止している状態を確実にカメラ

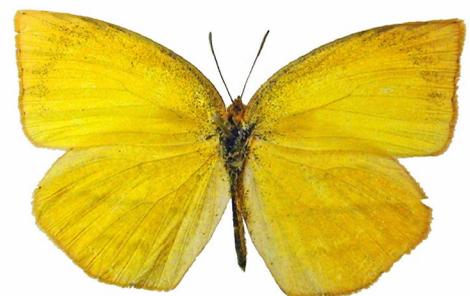


撮影記録し、外観だけからすぐには♂♀の区別が難しいためネットインしたら♂だったので記録標本用に確保した。図示した標本が示すように黄色が鮮やかなきれいなチョウである。もちろん♀だったらその場で放していた。ところで、

西畑地区にはこのチョウの幼虫が食べるカワラケツメイという植物がどこにも見られなく、いったい、どこからやってきたのか、前に紹介したキタテハ同様にまったく謎の風来坊的飛来である。図鑑類をよく調べると、どうやら秋に発生する個体だけは発生地からかなり遠くまで飛散する傾向があるようで、このときの個体もどこか遠くから花畑をみつけてやってきたと考えられる。申し訳ないと思いつつも貴重な記録標本として残すために犠牲となってもらったのだが、嬉しいことにその数日後にも花畑にきてくれる新たな♂をみる事ができた。接近しすぎて驚いたチョウは西畑町内方面へと飛び去って行方がわからなくなり、その後何日か通いつめても再びきてくれなかった。

ツマグロキチョウは、本来、絶滅危惧 I B 類に選定されるはずのない普通種だったが、その食草であるカワラケツメイという植物が自然生育する環境が、宅地造成や河川護岸工事による川原の消滅など、人為的開発によって激変しているのがその大きな要因で次第に数を減らしている。山口市徳地ではカワラケツメイの実を煎じた「マメ茶」（私は実際に光市出身の友人に飲ませてもらったことがあるがコクがあってとても旨い）を嗜む風習があって、その目的でカワラケツメイが栽培されていてツマグロキチョウの安定発生地ともなっている。幸いにも、そこではとくじ健康茶企業組合と山口むしの会との協力によるツマグロキチョウの保全気運が高まっているそうである。

なお、このチョウに異常型が出ることはめったにないが、翅表の黒い鱗粉がほとんど欠落した変異個体を東京都内微生物化学研究所の裏庭草地で捕獲している。この個体もどこか他所で発生した風来坊だ。2009 年の正月に和歌山太地町の蝶友にメールで依頼したら、快くカワラケツメイの種をたくさん送ってくれ、西畑花畑に種を蒔いてあたり一面に群れる形で生育してくれたが、ツマグロキチョウが飛来産卵することはなく、多くのチョウが飛び遊んだこの花畑一帯が 2012 年に始まった自動車道路設置工事のために完璧に破壊されたのが悔しくてならない。



Sep. 20, 1974 東京都品川区上大崎

Sep. 21, 2015 高砂公園にチョウが舞う

昨日の午後、テニスコート周りで飛ぶツマグロキチョウを観察したことから、確実な撮影記録を撮る目的で10時過ぎに高砂公園を訪れる。ナデシコが植栽された花壇からツマグロキチョウが飛び立ち、続いてツマグロキチョウが飛びだしてくる。すぐにこの標的の飛翔についていく



と、しばらくは路面にしか止まらないがまずは記録を優先。それにしても、秋になると行動範囲が広がるという本種、いったいどこから飛来したのだろうか。できれば花にとまってくれないかなと願うと、うれしいことにナデシコの花へと転飛してとまってくれる。夢中で蜜を吸うところまではいかないようで、すぐに飛ばれるが、ポーチュラカが密度濃く咲く部分まで飛ん



でからは割合長く吸蜜をしてくれる。できれば翅表も記録したいと転飛するところをフォローして、小さい映像記録だがツマグロキチョウだと分かるショットをキャッチ。

Sep. 22, 2015 今日も高砂公園

昨日のツマグロキチョウがまだいるのかと再び高砂公園へ。期待したツマグロキチョウが昨日とは100mほど離れた場所でナデシコの花蜜を求めて飛ぶ光景に出会う。観察できたのはこの個体だけで、君はどこからやってきたのか？と聞いても答えてくれるはずはなく、解明したい課題の筆頭だ。うすぐらい場所に自生するヌスビトハギに産卵行動を示すのはキタキチョウの♀で、その色調は♂であってもツマグロキチョウの濃い黄色とは容易に区別がつく。



Oct. 6, 2015 サイクリング途上でもチョウに会う

シルビアシジミの観察に向かう途上、チョウが目に入ると自転車をとめてカメラで迫る。ツマグロキチョウがどこからか現れてキツネノマゴで吸蜜し始めるが、いい撮影アングルがとれなくもっと低い位置から撮ろうと近づくと飛ばれてしまうが、幸い遠くへは逃げず。自転車を押してややきつい坂道を上っていたら、人家屋根を越えて飛ぶのが目に入り、自転車をとめてその飛翔を追う。



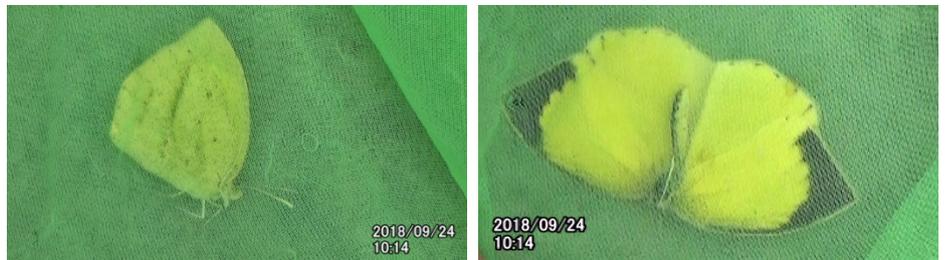
100m 以上追跡してセンダングサの咲く草原に向かうのをさらに追いかけて、タンポポで吸蜜し始めたところをキャッチ。次いで、タデの花へと移って少しだけ止まったところを素早く記録す



るが、フォーカスを合わす間もなく飛び去られる。

Sep. 24, 2018 加古川河川敷でチョウタイム

キタキチョウは少ないながらも夏型、準夏型（夏秋中間型の1タイプ）及び秋型の3タイプが観察でき、あちこちでメドハギに産卵する♀の姿が見られた。その記録をとったあと、ランダム飛翔でやってくる小型のキチョウを捕獲するとなんと絶滅危惧IB類選定のツマグロキチョウ。脚を傷つけないよう注意しながらネット内で裏面と翅表双方の証拠記録を撮影してから逃がしてやる。



Oct. 4, 2019 高砂市のシルビアシジミ生息地へ Cycling

キタキチョウに混じって飛ぶ黄色が濃い個体に注意すると、今年の初記録となるツマグロキチョウだ。又スビトハギでほんの少しだけ吸蜜をしてすぐに飛び立つ様子はフォーカスが合わないビデオ記録になってしまう。



Oct. 6, 2024 ツマグロキチョウを観察

テニスの帰り、又スビトハギの花が咲く草むらを飛ぶキチョウが目に入り、その動きを追っていると、キタキチョウにしては黄色の色調が濃く見える。又スビトハギの花がたくさん咲いているのに止まることなく、やがて10mほど離れた位置に咲くユリオプスデージーの黄色い花で吸蜜し始める。急ぎ近づいて黒鱗粉がよく見える逆光側からビデオ撮影をすると、なんと紛れもないツマグロキチョウだ。秋になると相当の遠距離を飛んで移動することが



わかっているが、この個体がどこからやってきたのかはわからない。この花での撮影を終えるとさらに飛んで小さなヒナギキョウの花でも蜜を求める。透けた前翅に影となって見えるはずの性標が確認できないことから♀だと思われるが、近隣に食草のカワラケツメイはないため産卵は期待できない。

Oct. 9, 2024 三木山森林公園に遠征

ツマグロキチョウの発生状況調査を目的として訪問（片道 22.5km）。カワラケツメイの群落がある場所であきらかに黄色色調がキタキチョウとは異なるツマグロキチョウが飛んでいる。太



陽が雲に隠れるとすぐに草間の暗い部分へと飛んで草葉上に止まる。確認できたのは3個体で、いずれも長く飛ぶことはなく、草陰へと飛んで休息態勢をとる。カワラケツメイは大半が種となっていて、黄色い花は少なく、花蜜を求める場面は見ない。また、産卵をしそうな動きが見られた個体も、結局は草陰へと移って休んでしまう。